

全私研感想文

大東学園東和会 井上絵里子

第9分科会「学費問題・私学助成」に参加しました。全私研にはこれまで5回ぐらい参加しているのですが、レポート発表をするのは初めてです。

私学助成担当の部長の新沼さんと2人で発表しました。内容は、昨年度の私学助成学習用ムービーと「署名まつり」の取り組みについてです。レポートをまとめるにあたって、私学助成担当の杉中先生に1時間ほどインタビューをして、締め切りぎりぎりになんとか形にできました。コロナ禍のためみんなで集まる機会が減り、署名活動には苦勞しましたが、生徒、先生、保護者の三者で力を合わせ、こんなふうに頑張れたということを前向きに報告できたと思います。

ただリモート開催だったので、発表の仕方がよくわからず、文面を読み上げるだけになってしまったのが残念でした。画面にレポートを映しながら話ができるとうよかったです。でも大東がサテライト会場として使えたので、パソコンの設定なども先生にさせていただき、安心の雰囲気でも報告ができました。

印象に残ったのは「私学助成委員会の立ち上げ」について報告した兵庫・神戸弘陵育友会のレポートです。育友会の中の「生徒指導委員会」を「私学助成委員会」として再スタートを切り、地域のまつり「まちの文化祭」で署名を訴えたという活動が参考になりました。生徒減で、7クラスから4クラスになったとき、私学助成があったから学校が再生できたというエピソードも説得力がありました。

もうひとつは「東邦での助成金学習会」の発表をした愛知・東邦高校の中村先生のお話です。若い先生が組合の青年部で、助成金運動にみんなで関わっていきたくて熱い思いを訴え、活動を盛り上げていった内容でした。私学で働く以上、自分たちの給料や生徒たちの家庭に入るお金に大いに関わってくる問題だととらえ、運動を活発に進めていました。寸劇形式でクイズを出しながら、高校への助成金や教員の人件費、教育基本法などを楽しく学んでいるそうです。私立学校が公教育である以上、税金で補助を受けるのは正当な権利だと、自信を持って取り組むことができたという話を聞き、自分たちの署名活動にも生かしていきたいです。

大阪・秋桜高校の駅頭署名の取り組みにも励まされました。具体的な数字をあげて、署名の役割を多くの人に実感してもらうことが大事だと思いました。分科会で学んだことを、これから本格化する署名活動の力にしていきたいです。